



ボランティア

消防団の活動

市民や他市町からのボランティアの活動は被災者を勇気づけ、明日への希望を育みました。

初期消火に活躍 市消防団

市の消防団は、1消防団、8分団、49個班、団員は1,040人で構成され、タンク車1台、ポンプ車2台、小型動力ポンプ付積載車40台を保有しています。

団員は、それぞれの家庭で被害を被っているにもかかわらず地域の住民を守るため、非常招集により消防本部並びに各地区の市民センターに参集しました。そして消防団長の総指揮のもと、また、各地区の副団長の指揮により、当日午後4時19分までに火災出動6件、警戒出動97件の災害活動のため、消防団車両43台、504名が出動しました。引き続き18日から1月23日まで警戒出動73件、301名が出動し、初期消火などに大活躍しました。こうした団活動は、国でも高い評価を受け、防災功労者消防庁長官表彰を受賞しました。

屋根の修理などの 救援活動も

消防団長、副団長が市内の被害状況調査報告を受け、協議の結果、ボランティア活動隊を編成し、高齢者

の家庭、身体の不自由な人や母子家庭などの屋根のシート張りや転倒家具の復旧整理などの救援活動を行うこととしました。

依頼があれば、受信順に団員が現場に出動して快く作業にあたりました。とくに、屋根のシート張りは、ロープやシート等の資材を消防車両に積み込み、1班4、5人の団員が、寒風吹きすさむなか、瓦のずり落ちた屋根に上がり、シート張りの作業を続けました。時おり、突風で思うように張れず、転落しそうなこともた

びたびありました。

活動期間は、1月24日から1月29日までの6日間で、出動件数は110件、出動延べ人員は、547名となりました。

このほか、1月21日と22日には災害救援物資備蓄基地となった兵庫県消防学校に出動し、全国から寄せられた救援物資の仕分け作業や各被災地へ搬送するための積み込み作業にも従事しました。また、2月25日には三木市に設置された救援物資備蓄基地でも同様の作業を行いました。



屋根のシート張りをする消防団員(大蔵谷)



ボランティア

建築士事務所協会の活躍

建築士事務所協会に 電話殺到

兵庫県建築士事務所協会は、会員相互の協力によって建築士事務所の業務の進歩改善と品位の保持向上を図り、建築文化の進展と公共の福祉の増進に寄与することを目的として結成されています。県内には理事会の定める区域ごとに、明石支部を含め12支部が設けられています。

明石市を区域とする当協会明石支部の震災直後の活動は、非常に敏速で、早くも1月19日には支部長が建築部へ来庁され「何か手伝うことはないか、協力したい」との申し出がありました。当局が対応していた「戸

建て住宅の危険度判定調査の協力をお願いしたい」と要請したところ、快く引き受けていただき、これを契機に後々、種々の依頼をお願いすることになりました。

マンション等の共同住宅は他県の判定士によって行われましたが、戸建て住宅も震災の危険度判定の必要がありました。このため、支部の事務所を市民からの依頼先にして広報紙に掲載したところ、電話が殺到、支部の事務職員だけでは対応しきれず、会員も交替で出向きました。3回線ある電話もパンク状態、「何度かけても話し中だ」との苦情もでるほどでした。

続いて1月末から、電話による相談内容が危険度判定から「被災建物の

修理が可能か、どのように修理をすればいいか」といった復旧相談に変わっていきました。このため、危険度判定を2月4日受付分までとし、6日からは建物の被害調査と修理等の技術指導に切り換えることとなりました。

また2月15日から3月10日までは住宅復旧相談センターが開設され、市職員とともに相談に応じていただきました。さらに2月28日からは、被災証明のもとになる家屋損害割合判定の再調査の実施にあたってもらいました。

戸建て住宅の応急危険度調査は、現地調査2,192棟、電話相談件数2,280件、家屋の再調査は約2,600棟となりました。

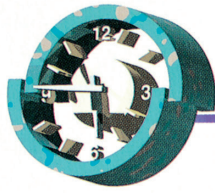


(社) 兵庫県建築士事務所協会 明石支部長 岸本俊次

建築士事務所協会が全員で努力

応急危険度判定から始まり一連の建物に関する調査は、この大震災において我々建築士事務所協会が市民のために何が出来るか、「少しでもお役に立てれば」という素朴な気持ちを原点にして始め、協会員全員が一丸となって献身的な努力により、今までにない多大な成果をあげたものと思います。

また、市民の皆様にも当協会の存在をアピールできたものと思っております。



ボランティア

各種団体の活動

目を引く若者や女性の活躍

多くを失った震災でしたが、得難い体験も数多くありました。その最も大きなものはボランティアの活動でした。避難所での温かい炊き出しや各所での行動はどれだけ被災者の心を慰めたことでしょうか。

明石市でも約60団体による避難所等での炊き出し及び100余りの団体や個人から食糧の救援をいただきました。避難所への食糧の配送には、地元の若者、主婦ら延べ41名のボランティアの応援をいただきました。交通渋滞をくぐり抜け救援物資を運び込んでくれた一般市民の方々。自由かつ達で何者にも縛られないのが、ボランティア本来の活動規範と言えます。それが、行政の一端に組み込まれることによって、行動が制約を受けることのないような、ボランティアと行政の相互支援システムが必要であると考えます。

2月1日から加古川市、高砂市の職員もトラック付きで応援に来てくれました。この職員がもたらされた言葉「もっと早く私たちは応援に来たかったです。震災直後に、被害の大きい近隣市町に対して、何か私たちにできることはないか、何かお手伝いをしたいと言う気持ちが、職員の間で自然発生的に広まり、やって来られました」と言われました。

このたび、明石市は、近隣市町をはじめ、広く他地域からの食糧や炊き出しの救援をいただきましたが、遠く北は北海道から南は九州にいたるまで全国各地から実に心温まる支



避難所のお年寄りにマッサージ奉仕をするボランティア(王子小学校)

援をいただきました。今後もし、他市町で大規模な災害発生があったときには、明石市は直ちにその救援のため、おにぎりや炊き出しができる調理設備の確保や人員配置、配送にいたる車両の手配等、迅速に対応できるように協力体制の確立を進められればと思います。

また反省点としまして、対応が長期化した場合は市職員は通常業務もあるので、関係団体との助け合いのネットワークの育成が必要だと考えます。



市内各所でボランティアによる炊き出しが行われた(大蔵中町)

温かい心のネットワークを

今回の震災に関連して各所でボランティア活動が展開され、その活躍ぶりは多くの話題を集めました。

明石市にもボランティア活動の申し出が多方面から相次ぎ、市社会福祉協議会を窓口にして登録が行われました。

「困っている人がいる。自分の持っている力を少しでも発揮し、少しでもお役に立ちたい」という思いが、自然発生的に人々を助け合う行動にかき立てたようです。登録者は高校生から高齢者まで幅広く、そのなかでも主婦層の参加が目立ちました。

活動内容は避難所での手伝いをはじめ、老人憩の村での入浴の手伝い、身体の不自由な方宅での部屋の片付けなど、幅広い活動が見られました。

(別表参照)

なかには、広島県から駆けつけ、5日間にわたって避難所に泊り込み

支援活動を続けた専門学校の若者、給水塔が損傷したため、明舞団地で水汲みにあたった市内の高校生たち、また、寝食を忘れたかのように、避難所で活躍された女性の姿もありました。また、明石市ボランティア連絡会に登録している会員たちも、ふだんの経験をいかしながらお年寄りらの介助や介護をはじめ、物資の運搬、食事の支援にと献身的に行動されました。

このほかにも、目に触れない所でも数多くの心温まる話があることは言うまでもないことでしょう。さらに、震災を機にして、コミュニティー意識を大切にしながら地域でボランティア活動を展開しようと、グループが誕生したところもあります。

このように数多くの人たちの支援、救援活動は被災者らへの温かい励ましになったものと思われます。

自然現象といっても、今回の震災は非情で過酷なものがありました。しかし、人々のやさしさや連帯の大



お年寄り宅などの水汲みを手伝う高校生(松が丘1丁目)

切さにふれることができました。この貴重な経験をいかし、お互いに助け合って共に生きていこうとする温かい心のネットワークを広げていきたいものです。

ボランティアの登録と活動

活動状況

派遣内容	件数等	派遣人数
避難所で手伝い	27か所	776人
避難所への食料の配送、炊き出し	—	80
老人憩の村で入浴の手伝い	4か所	91
マイクロ車による入浴送迎の手伝い	—	15
ホームヘルパー派遣世帯の援助	17世帯	20
施設で洗濯奉仕	1か所	6
水の運搬	100か所	414
ガレキの片付け	50件	38
屋根のシート掛け	3件	4
部屋の片付け	17日間	40
安否の確認	10件	10
物資の運搬等	10日間	37
介助、介護等	9件	16
引っ越し手伝い	7件	41
その他	20件	116
登録数 443人	合計	1,704人

ボランティア連絡会会員による活動

派遣内容	件数等	派遣人数
物資の運搬等	114件	1,697人
介助、介護等	151	
食事等の支援	165	
水の運搬	37	
部屋の片付け	25	
安否の確認	117	
引っ越しの支援	3	
その他	25	